

循環型社会のミクロ経済学（第6回）

本日の授業『静脈経済での価格決定原則②』の目標

- ①代表的な処理者行動の特徴がどのようなものかが分かること
- ③代表的な処理者の目的とその目的を達成する方法が分かること

本日の構成

- 6-1. 代表的な処理者行動の特徴
- 6-2. 代表的な処理者の目的とその目的を達成する方法
- 6-3. まとめ

6-1. 代表的な処理者行動の特徴

①処理者行動を観察する方法

②代表的な処理者行動の特徴その1

(1)廃品（ゴミ）を引取って得られるお金「 $\text{処理収入} = \text{廃品価格} \times \text{処理量}$ 」

<a>廃品価格：廃品を取引するときに必要なお金

処理量：廃品を引取り処理する数

(2)廃品を引取・処理するために必要なお金「 $\text{処理費用} = \text{材料費} + \text{雇用費} + \text{設備費}$ 」

<a>材料費：廃品を処理するために必要な材料の調達費

雇用費：廃品を引取・処理するために必要な人材の調達費

<c>設備費：廃品を引取・処理するために必要な

(3)廃品を引取・処理した結果、増減するお金「 $\text{処理利益} = \text{処理収入} - \text{処理費用}$ 」

<a>処理利益がプラス（黒字）：お金が増える

処理利益がマイナス（赤字）：お金が減る

<c>処理利益がゼロ：お金の増減なし

③代表的な処理者行動の特徴その2

(1)限界処理収入：廃品を引取・処理する数を1つ増やしたときに増える収入の大きさ

<a>廃品価格が変わらない場合、「 $\text{限界処理収入} = \text{廃品価格}$ 」となる

「 $\text{処理収入} = \text{限界処理収入の合計}$ 」

(2)限界処理費用：廃品を引取・処理する数を1つ増やしたときに増える費用の大きさ

6-2. 代表的な処理者の目的とその目的を達成する方法

①目的「処理利益を出来るだけ大きくするように廃品を引取・処理する事」

(1)処理収入：廃品を引き取ることで得られるお金

一) (2)処理費用：廃品を引取・処理するために必要なお金

(3)処理利益：製品を引取・処理することで増減するお金

②目的を達成するための方法「限界的な意思決定による廃品引取・処理量の選択」

(1) $\text{限界処理収入} > \text{限界処理費用} \rightarrow \text{廃品の引取・処理量の1つ増加を選択}$

→ 処理量を1つ増やしたときに得られるお金は、失うお金よりも大きい

→ 処理量を1つ増やすと、処理利益が増える（＝処理量を1つ減らすと、処理利益が減る）

→ 処理利益の最大化という目的のためには、処理量を1つ増やした方が良い

- (2) 限界処理収入 < 限界処理費用 → 廃品の引取・処理量の1つ減少を選択
→ 処理量を1つ増やしたときに得られるお金は、失うお金よりも大きい
→ 処理量を1つ増やすと、処理利益が減る（＝処理量を1つ減らすと、処理利益が増える）
→ 処理利益の最大化という目的のためには、処理量を1つ減らした方がよい
- (3) 限界処理収入 = 限界処理費用 → 廃品の引取・処理量の増減なしを選択
→ 処理量を1つ増やしたときに得られるお金は、失うお金と同じ
→ 処理量を1つ増やしても、処理利益が増えない（＝処理量を1つ減らしても、処理利益が増えない）
→ 処理利益の最大化という目的のためには、処理量を増減しない方がよい

6-3. まとめ

- ①代表的な処理者は、自分の利益を出来るだけ大きくする目的のために、廃品の引取・処理をどのようにすれば良いのかを考えなければならない。
- ②代表的な処理者は、限界処理収入と限界処理費用が同じ大きさとなるように廃品の引取・処理量を定めれば、利益を最大にすることができる。

Memo